


## サントリーホールの クリスマスに寄せて

市川紗椰(モデル・タレント)

このプログラムを手にとっているってことは、あなたは先程、サントリーホールのエントランスをくぐってきたということでしょう。レセプションのお出迎えでホワイエに足を踏み入れた瞬間、包み込んでくれる煌びやかな光。ホリデー仕様の装飾や天井の大きなシャンデリアに目を奪われたのか、開演前のドリンクコーナーに誘惑されたのか、はたまたコートを脱げた身軽さに一息ついているのか、とにかく非日常な世界に浸っていることを願っています。

ここに来る時に通ってきた街も、年末特有のソワソワが漂っていませんでしたか？ ワクワク感と慌ただしさが入り混じる浮き足立ってる東京を見ると、私は友達との冬休みの約束が楽しみでしかなかったことや、寒い地域に住むおばあちゃんの家のかな灯油の匂い、そして最後まで残った大仕事や、やっと片付いた安堵混じりの充実感なんかを思い出します。

季節と記憶とが密接であるように、音と記憶も直結していると思います。ふと曲を耳にして、一瞬にして思い出が蘇る体験。まるで記憶の扉がパッと開き、嬉しい記憶も苦い記憶も当時と同じ感情で押し寄せてくるあの感覚。視覚的なものより聴覚的な記憶の方が、ダイレクトに感情に結びついていると私は信じています。明確なエピソードがなくても、漠然とした「あの頃」を装飾してくれる音楽は、まるでタイムマシーンのよう。一度しかない人生を、当時のような感情をおかわりさせてくれる音楽。こういった鍵となる音楽が多ければ多いほど、豊かな日々になる気がします。





今夜ここで聞く音楽も、未来の自分にとっての鍵になるかもしれません。この季節の出会いは特に心に刻まれる力が大きいので、私は今夜特に気になった作品をしばらく集中的に聴こうと思っています。未来の自分へのご褒美として、いつかまたここに来れる思い出の鍵を作る気分で。

ちなみに今夜のプログラムにはまさに私にとっての鍵のような作品があります。アメリカで育った私は、いわゆる「クリスマスらしい」経験をしてきました。12月になると郊外に出現するツリー農場で生の木を斧で切り落とし、24日に家族で飾りつけ。天辺に飾る星は兄と私で一年おきに交代で担当。25日の朝には無駄に早起きをし、プレゼント大会の前に犬と雪遊び、なんて嘘のようなベタな過ごし方でしたね。学校では毎年、恒例のホリデーコンサートがありました。今夜の一曲目、アンダーソンの『クリスマス・フェスティバル』は吹奏楽部の定番曲。私が所属していたオーケストラはユダヤ教の祭事・ハヌカの曲を担当していたけど、人数が足りない年はベルを鳴らしに吹奏楽部へ数名派遣されました。出番はあまりないので演奏そのものよりアウェーな部活にお邪魔する緊張の方が強かったけど、このアレンジを聞くと演奏後の一体感を思い出します。今思えば、互いを助け合って小さな喜びを分け合うアメリカ流「クリスマス・スピリット」を体現できた曲かもしれません。

メンデルスゾーンの付随音楽『真夏の夜の夢』も、シェイクスピアの戯曲に合わせて中学校で触れた記憶があります。堅苦しそうなイメージに反して、イタズラ好きな妖精たちが若者に惚れ薬の魔法を使って大騒ぎを繰り広げるトホホな内容の物語。今の季節に聞くと、森に息づく妖精たちがサンタのお手伝いをする小人の妖精たちにも思えて、また趣が違いますね。管楽器の「何か起こるぞ」的な妙なる和音と妖精たちの舞いのような弦楽器に耳を傾けながら、今年起こった予定外の出来事や、思い通りにいかなかったことを

振り返っても良いかも。すべては妖精たちの遊びだと思って、今日の演奏に昇華してもらいましょう。

「おとぎ話」で繋がる今回のプログラム。クリスマスの夜に起こった不思議な出来事を描いたチャイコフスキー：バレエ組曲『くるみ割り人形』も、アメリカではホリデーシーズンになるとあちこちで耳にする定番曲（日本で言うと、「第九」に近い存在かもしれません）。地域や各劇場の文化行事で毎年上演され、バレエを習っている子供は教室ごと参加したりします。「金平糖の精の踊り」で、当時発明されたばかりの楽器チェレスタを初めて大々的に使用したことで有名なこの作品。今の最先端が未来の定番になるワクワクも感じながら聴きたいです。

全体のラストを彩るのはストラヴィンスキー：『火の鳥』の終曲。魔法から解放されたような晴れやかな輝きの大団円で終わりますが、これでお別れとは限りません。今から体感する幸福サウンドにじっくり浸れば、この時間が幸せの思い出の鍵になるはず。自分だけのおとぎ話のように。。。



### Saya Ichikawa

1987年生まれ。4歳から14歳までアメリカ・デトロイトで育つ。ファッションモデルとしてデビューし、ラジオやテレビなどでも活躍中。「鉄道」「相撲」など好きな物にかける情熱が強いことから「マニア」としてメディアに登場することも多い。現在レギュラー出演番組にJ-WAVE「ORIENT STAR TIME AND TIDE」、NHK-FM「×(かける)クラシック」がある。

